

日本赤十字社
Japanese Red Cross Society

川西赤十字病院ニュース

〒384-2292 (病院個別番号) 長野県佐久市望月318
 TEL.0267-53-3011 (代) FAX.0267-53-5901
<http://kawanishi.jrc.or.jp>
kawanishi-med-jrc@shore.ocn.ne.jp

■ 発行者：川西赤十字病院
 ■ 院 長：酒井龍一
 ■ 印刷所：立科印刷

2022年 謹賀新年

病院長 酒 井 龍 一

2021年4月に大和院長より病院の運営を引き継ぎました。病院の運営に本格的に携わるのは初めてで皆様に取り組みを教えていただきながら運営してまいりました。皆様のご協力に感謝しております。

さて病院にとって今年は苦難の道のりとなってしまいました。2020年初頭COVID19の感染流行は、ダイヤモンドプリンセス号で世界的に大きくクローズアップされました。国内の状況は皆様が知るところとなっております。当院でも院内に入り込みましたが職員の努力で最小限に食い止めることができたと思います。このウイルスの感染力はすさまじく、さらに変異することで抵抗してきます。現在（12/3）世界的な流行の再燃の兆しに反して日本では落ち着いた状態が続いています。原因は不明ですが日本人のまじめさが根本にあります。また、医療人の努力によって死亡率は世界でも非常に低い状況です。後もう一步のところまで来ていると思います。もうひと踏ん張り家族のため仲間のために頑張りましょう。さて、このウイルスのもう一つの脅威として当初より人と人との絆を断ち切るといわれてきました。地域では榊祭り、草競馬大会、当院の病院祭、さらに集合での研修会や講習会などのみんなの成果を披露したり・勉強したりする機会がほぼ皆無となってしまいました。やはり人と人との絆は衣食住に加えて人間には生きていくうえで必要なことと実感させられました。

夏には賛否両論ありましたが、東京オリンピックが開かれました。立科町ではウガンダ選手団、佐久市にはエストニア選手団が事前キャンプを行い、それぞれ友好を深めたと思います。世界中が自国の選手を精一杯応援する。また他国の選手であってもその卓越したパフォーマンスに賞賛を送りました。この時皆が同じ方向を向いて一丸となった事が孤立化を狙ったウイルスに対しては有効であったのではないかと思います。一方まだSNS等では誹謗中傷が絶えず今一度人を思う気持ち、仲間・家族をそして自分自身の心を思う気持ちを大切に出来ればよいと思います。

昨年職員に病院の目標として『良い病院を作りましょう』とお話ししました。「言うは易く行ふは難し」の様な言葉です。今年はこの目標を意識し、自分がかかりたい病院・家族・仲間を連れてきたい病院を意識していきたいと思っています。日々の生活の中で、この人の対応は素晴らしい、こうした人になりたい、時にはこうした方がもっと良くなるなど日々思うことはあると思います。職員一人一人が一步踏み出すことできっとより良い病院になると思います。自分はこれができるではなく、私はあなたに対してこれができる。視点を自分から相手へ変えてできることの範囲を広げていきましょう。今年COVID19の克服の年にしていきたいと思っています。それぞれを思う気持ちを一つにして元気な年にしていければと思います。

2021年赤十字病院第3ブロック救護班訓練に参加して

病院長 酒 井 龍 一

日本赤十字社の救護班の登録人数は1万人を超えております。自然災害により被害を受けた方々への救援活動、被災地や保健衛生の環境が整っていない地域等に対して救護員を速やかに被災地に派遣して医療救護を中長期的に行う、伝染病予防教育、医療機器の整備、飲料水供給・衛生環境改善事業など多岐にわたります。日本赤十字社として備蓄している救援物資を提供するほか、義援金の受付も行います。と厚生労働省のホームページに記されており、災害時の救護活動は日本赤十字社の責務です。

救護班訓練は全国levelで行われておりますが、まだ実戦さながらの訓練の機会は少ないと思います。そこでブロック単位でも年に1回集合で訓練を行いその技量を高めてまいりました。そうした中今回はCOVID19の蔓延により各施設オンラインでの参加となりました。それぞれの医療機関のlevelに応じて机上から、模擬患者を用いた訓練まで行われました。それぞれ技量を高められたと思います。私は今回台風19号災害のお話をさせていただく機会をいただきました。様々な団体が得意分野を生かして災害救護を行っております。東日本大震災を契機に災害時のコーディネートの重要性がクローズアップされております。医療救護のみならず被災者の生活を支える支援が必要となってきました。台風19号災害ではコーディネートチームは15班、救護班は17班心のケア16班にご協力いただきました。今回はDMATと協調しての活動となりました。災害直後はDMATの組織力を生かした形で大きな施設から200名近くの動けない被災者を救助しております。その際問題点としてDMATは緊急事案に全力で当たるため、その間他の避難所は手薄になってしまいます。3日後に救護班が避難所巡回をした際にも被災者より「今頃来てなんだ」とお叱りを受けました。住民からのボトムアップで必要とされている部分を補っていく事も赤十字の使命と痛感させられました。また、日頃から赤十字奉仕団の方々の炊き出しなどありますが、衛生面で行政の許可がなかなか出ず、対応が遅れました。行政と協調が足りなかった部分です。被災者は不安が強く非日常を送るため、心のケアも必要となりました。被災者のみならず行政や救護班自身にとっても非日常でやはり心のケアが必要となり各機関で行っていただきました。また、今回は長期にわたり学校が避難所となり、学童にも非日常の生活を強いてしまいました。そこで今回はそうした急性期の精神的な変化を見逃さず対応できるようにと小学校の教師を対象に心のケアのファーストエイドの講習会を諏訪赤十字病の森光さんのご協力で開催することができました。私は子供の元気な被災地はきっと復興できると思います。いろいろな反省点もありましたが、万が一の時は私たち赤十字の社員が被災者に寄り添えるようにこれからもしっかりと準備することが大切であると痛感いたしました。

院内感染対策委員会の活動の紹介について



院内感染対策委員長
(看護部長 兼 医療社会事業部長)

水内 豊
みのち ゆたか

今回は、院内感染対策委員会についてご紹介します。

当委員会については医療法による設置基準もあり、院長、看護部長、事務部長など部門の責任者や各部署の委員、13名による構成で、医師、看護師、薬剤師、臨床検査技師だけでなく、リハビリ科、管理栄養士も加わっています。月1回定例で会議を開催し、委員会メンバー全員で月1回の院内部署ラウンドも実施しています。次に述べます ICT 活動の報告や毎月の感染症発生報告に加え、昨年度からの新型コロナウイルス感染症発生に伴い、院内での取り扱いについても検討し、院内感染対策マニュアルについても定期的に見直しをして、更新して職員に周知します。その他、年2回以上の全職員対象の研修会の開催も行っています。

委員会の中には、ICT（感染制御チーム）があります。現在、ICT というと Information and Communication Technology「情報通信技術」と捉える方も多いと思いますが、Infection control team としておよそ20年前から活動しています。地域や院内の感染症発生情報を得て、毎週1回、院内の各部署を巡視して、正しく感染対策が実践されているかをチームメンバーで巡視して指導したりしています。看護部の安全・訓練・救護委員会では、各病棟で毎月使用されたアルコール手指消毒剤の使用量を調査していますので、それに基づき手指衛生の徹底も呼び掛けています。

また、10年ほど前より診療報酬の中に感染防止対策加算が新設されました。当院は同加算2を取得し、地域の同加算1施設（大中規模病院）と連携を図り、合同でカンファレンスを開催して情報交換を実施したり、訪問指導を受けたりしています。今年度からは、浅間南麓こもろ医療センター、丸子中央病院と連携して年4回のカンファレンスを行っているところです。さらに上田医療センター、依田窪病院、東御市民病院も加わった6病院間での合同カンファレンスを年2回開催して情報交換を行っています。

そして、私は長野県下で病院勤務している感染管理認定看護師の中で最長経験者でもあることから、長野県看護協会や近隣の施設等からの依頼を受けて、県内各地の施設等への出前講座・研修会も実施しています。昨年度には新型コロナウイルス感染症対策に関する訪問支援・研修等で、30カ所近くに出向きました。地域包括支援システム同様に感染対策についても地域ぐるみで取り組むことが重要となっています。保健所・行政等との調整会議等に参加したり、県内の施設からの感染管理に関するコンサルテーションを受けたりもしています。

現在、新型コロナウイルス感染症は少し落ち着いていますが、まだまだ「With コロナ」です。新たな流行に備えて、「新しい生活様式」を継続して、手指衛生、マスクの着用、各自の健康管理などしっかり行い、地域全体で感染対策に取り組みましょう。



浅科・望月地域包括支援センターのご案内

全国にある赤十字病院の中で地域包括支援センターの委託をうけているのは川西赤十字病院と富山赤十字病院だけです。佐久市内には6か所地域包括支援センターがあります。

当地域包括支援センターの利用対象者は浅科地区・望月地区にお住まいの65歳以上の高齢者とそのご家族です。

高齢者が住み慣れた地域でその人らしい生活が続けられるように保健・医療・介護・福祉を総合し必要なサービスにつなげる身近な窓口です。

主任ケアマネジャー、保健師・看護師、社会福祉士、生活支援コーディネーターの専門職が在職しており、それぞれの専門性を生かし、活動しています。

地域包括支援センターではこんな仕事をしています

○総合相談（なんでもご相談ください）：「どこへ相談すればいいのかわからない」「介護保険制度について知りたい。」「地域で住んでいる一人暮らしの高齢者が心配」などを一緒に考え必要な情報を提供します。

○包括的・継続的ケアマネジメント（様々な機関で皆さんを支えます。）：様々な職種や機関と連携し、地域での生活がより暮らしやすいものとなるように支援します。（市町村・医療機関・民生委員児童委員・介護保険サービスなど）

○権利擁護（高齢者の権利を守ります）：判断能力が不十分な方の生活や権利を守るための「成年後見制度」に関する相談や「悪質商法の被害にあった」など様々な相談をお受けしています。

○介護予防ケアマネジメント事業（自立して生活できるように支援します）：身体の機能に不安や低下がある方の状況に応じて市の介護予防教室や「介護予防・日常生活支援総合事業」、介護保険などのご案内を行っています。サービス事業対象者、要支援1、2のサービス調整やケアプランの作成を行っています。

○地域の支えあい、活動する場づくりを支援します。地域の支えあい活動の担い手を養成、元気な高齢者が担い手として活動する場づくり、サービス提供者間の連携体制づくり、地域の支援ニーズとサービス提供者の活動をマッチングなどを行っています。

相談方法

相談方法は電話または直接センターにお越しになるかお宅に訪問してご相談に応じています。相談に関しての秘密は固く守られています。

所在：佐久市望月 317-2（望月総合支援センター内）

利用時間：午前 8：30 ～午後 5：15

※土日・祝日及び年末年始はお休みとなります。相談は無料です。

2回目

接遇自己チェックリストの実施結果について

患者サービス委員会

職員一人ひとりの更なる接遇マナーの向上を目的として、患者サービス委員会では、年2回、全職員を対象に接遇自己チェックリストを用いて、各自で振り返りを実施しています。この度、11月に2回目の実施を行ないましたので、ご報告いたします。

接遇自己チェックリストは「言葉遣い・態度・身だしなみ」の3つの項目について、5段階（A 常にできている、B 時々できている、C あまりできていない、D ほとんどできていない、E まったくできていない）のいずれかでチェックを行ないます。

今回のチェックリストでは、全職員 106 名中 102 名の回答でした。「言葉遣い」では7項目中、常に・時々できている（以下「できている」）割合が平均で 82%の割合でした。前回より1%減少しました。特に「なれなれしすぎる言葉は極力さけていますか」「会話はゆっ

くりはっきりと、相手に合わせた言葉遣いにしていますか」の項目が減少しました。

「態度」では10項目中、できている割合が平均で79%の割合でした。前回より2%減少しました。特に「忙しいという気持ちを極力表情に出さないようにしていますか」の項目が減少しました。

「身だしなみ」については、7項目中できている割合が98%の割合でした。前回より2%より増加しました。

1回目の結果と比較して、出来ている項目もある一方、出来ていない項目もありました。特に減少した項目については、改善できるよう職員に周知します。

来年度以降も継続してこのような自己チェックを行う中で、更に接遇の向上ができるよう、まい進して参ります。



芦田城址の

竹林整備に参加しました

11月13日

蓼科ロータリークラブが主催する
芦田城址の竹林整備に参加しました。
前回伐採した竹を片づけながら、更に
伐採を進め、麓より展望台が
確認できるまで整備が
進みました



挨拶する酒井院長（中央）



斜面に生えた竹を伐採していきます。

鬱蒼とした竹林から、清々しい
城址が少しずつ見えるようになって
きました。

以前より歩きやすくなった芦田城址へ
是非足を運んでみてください。

人事往来

～採用～

当院の新戦力を
よろしくお願いします



- ① 相良 亜紀子
- ② 長野県
- ③ 看護師・療養病棟
- ④ 令和3年11月1日
- ⑤ 犬と遊ぶこと
- ⑥ 祖母が介護施設に入所したのをきっかけに
今の職業を知り、興味を持ちました。
- ⑦ 患者様が安心して過ごせるようなケアがで
きるようにがんばりたいです。

- ①氏名 ②出身地 ③職種・所属 ④採用年月日 ⑤趣味
⑥現在の職業・職種になったきっかけ ⑦今後の抱負

外来医師担当表

		月	火	水	木	金	土
内科 (循環器科)	午前 8:30～11:30	宮澤 泉 稗田 宏子	米倉 宏明 稗田 宏子	酒井 龍一 宮島 素子	米倉 宏明 信州大学 (和氣医師)	宮澤 泉 久米 典彦	休 診
	午後 14:00～16:00			米倉 宏明	酒井 龍一		休 診
小児科	午前 8:30～11:30	加納 洋	加納 洋	加納 洋	加納 洋	加納 洋	休 診
	午後 14:00～16:30	加納 洋	加納 洋	加納 洋	加納 洋	加納 洋	休 診
外科 (消化器科)	午前 9:00～11:30	休 診	清水 公男 月1回・第1週	休 診	検 査	佐久総合 西澤医師 (月1回)	休 診
整形外科 (リウマチ科) (リハビリ科)	午前 8:30～11:30	大内 悦雄	こもろ医療 9:00～	大内 悦雄	塩澤 律 9:30～	大内 悦雄	休 診
眼科	午後 14:00～16:00				荻野 彩絵		休 診
泌尿器科	午後 14:00～16:00		毎月第1金曜日のみです			佐久医療 ★予約制★ (月1回)	休 診

- 受付時間（全科） 午前7:00～11:30（初診患者受付は8:30より開始）
- 水・木曜日内科午後診は14:00～16:00まで
- 曜日により診療開始時間が下記の時間帯になります。
 - ・整形外科（火・第1・第3・第5土曜日）9:00～（木曜日）9:30～
 - ・眼 科（毎週木曜日）14:00～
 - ・泌尿器科（毎月第1金曜日）14:00～
- ★毎月1回、子宮頸がん検診を実施しています。
ご希望の方は当院医事課までお問い合わせください。
- ※担当医師は、曜日によって他の医師へ代診となることがあります。
その場合は、院内に掲示いたします。